

綾瀬市立北の台小学校

研究テーマ：「すすんで学び合う子の育成を目指して」～『聴いて、考えて、伝え合う』力を～

1 実践の目的

本校では「伝え合いの土台」をもとに、子どもたちが主体的、協働的に学ぶこと（主体的、対話的で深い学び）を通して、「知識や経験をもとに課題を解決する力」「論理的に考える力」「自分の考えを表現する力」といった教科の枠を超えた社会で広く活用できる力（ジェネリック・スキル）を育てていきたいという願いをもって、研究を進めてきた。また、サブテーマを『聴いて、考えて、伝え合う』力をとし、学習したことを広く様々な場面で活用できる力のある児童のさらなる育成をめざしている。また、「伝え合うための北の台モデル」を活用し、段階を踏んで少しずつ伝え合う力を高めていかれるよう、日々指導している。

さらに、今年度は「多面的に考え、表現できる子」という目指す児童像の重点目標の「考える」ことについても力を入れて取り組み、子ども達が自分の意見だけでなく、他の意見も取り入れながら、考えを広げたり、深めたりしていけるように指導を進めてきた。

2 実践の内容

（１）校内研究の体制

低・中・高・支援の4部会で、推進委員が中心となり、計画的に部会を運営している。今年度は、「伝え合うための北の台モデル」の活用方法の検討を軸として、児童の実態に合っているか、各学年で到達目標を達成できるようにどのような取組を行うことが

できるかについて検証を行った。

（２）研究授業、研究協議

各部会でひとつの授業を公開し、4回の全体授業研究を行った。学年だけでなく、部会で案を出し合い、授業を作り上げていった。また、全体授業研究とは別に、全職員が研究テーマに迫るべく授業を公開した。参観は任意（同じ部会の人々の授業は必ず参観する）ではあるが、授業後には部会ごとに授業についての協議時間を設けた。

（３）公開教材研究会

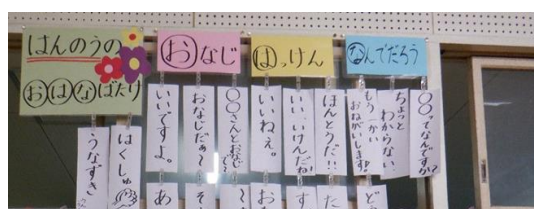
本校では、全体授業研究前に公開教材研究日を設定している。30分程度の短い時間で実施し、授業者の思いや悩みを共有する場とした。参加者全員で授業改善に向けて建設的な話し合いを行った。

（４）研究を支える日々の実践について

① 伝え合うための北の台モデル

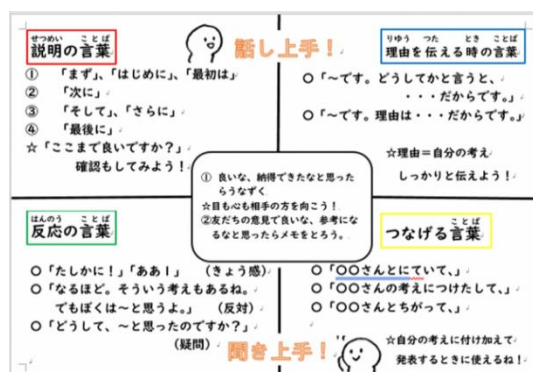
北の台モデルを基にして各部会で成果物を作成した。次年度も継続して活用していくことで、伝え合う力の積み上げを図っていくこととした。

低学年部会



《反応の ①・②・③ 畑》

中学年部会



《話し方・聞き方モデル》

高学年部会

Lv 7	「わからない」を自分から発信
Lv 6	自分の考えをつなげて話す
Lv 5	言いかえる（共感◎）
Lv 4	くり返す（共感○）
Lv 3	うなずく・つぶやく（共感）
Lv 2	最後まで聴く
Lv 1	丹田を向ける

《相手を大切にする聴き方》

特別支援部会

①

はじめます から

おわります。 まで しずかにききましょう。

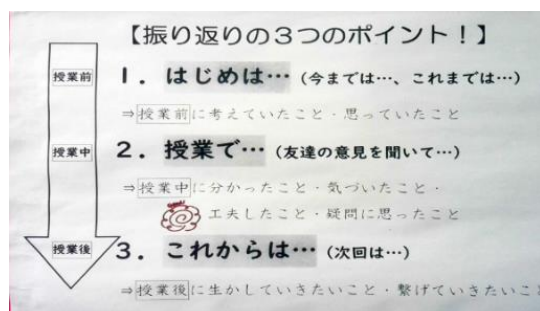
〈ふりかえり〉

できた! わかった!

むずかしかった!

つぎは、こうしたいな!

② 授業スタイルの共通化（振り返りを通して）



《振り返りの3つのポイント》を掲示して、書く力の向上を図った。次年度

は、「何のために、書くのか」についても、学校全体で行い、意識を高めていきたい。

3 実践の成果と課題

（成果）

○「伝え合う」に力を入れてきた結果、少しずつではあるが、相手意識をもって伝え合おうとする児童が多く見られ、伝え合う力が定着してきた。

○公開教材研究会は、全職員がアイデアを出し合うことで、授業者や他の職員にとっても考えや指導法を広げるよい機会となった。

（課題）

●全職員が授業を行えたことはよかったが、時期が集中してしまうと参観し難いため、計画的に行えるとよい。

●部会ごとで授業を検討する時期が異なることもあるので、部会の日程を自由に設定できるとよい。

4 今後の展開

今年度は、本校の目指す児童像の重点目標である「多面的に考え、表現できる子」の育成を目指し、「考える」ことについても力を入れて取り組んできた。校内研究を通して、「考える」ための様々な手立てを、全職員で共有することができた。次年度も引き続き研究を深め、考える力を定着できるようにしていきたい。

また、公開教材研究会では単元計画についてのアイデアをいただいたり、授業者が授業を参観してもらう際の視点を伝える場としたりして活用できるようにしていきたい。そして、各学年のニーズに合った単元づくりや授業づくりを行うことで、より有効な取組としていきたい。